

見直しの要因と責任の明確化なくして行政への信頼回復はない 地域事業費制度見直しの総括で指摘しました

9月定例議会が4日から始まりました。4日、5日と行われた総括質疑には私を含めて7議員が登壇しました。

私の質疑の中心は昨年度の市政の総括です。合併時の約束を見なおすことになった「地域事業費制度の見直し」問題、第4次行政改革推進計画の評価の在り方、大雪災害重機貸出事業の評価と課題、観光施設を管理する指定管理者の経営状態のチェックの在り方、住宅リフォーム促進事業の評価などを市長に質問しました。

地域事業の進捗管理責任を不問

「地域事業費制度の見直し」は昨年度大きな問題となりました。私は、「見直しをせざるを得なくなった最大要因は合併前上越市の地域事業の進捗管理がきちんとされていなかったから。この点についての事実と責任を明らかにすることなくして市民の行政への不信感は無くない」とのべましたが、市長からはこの問題での謝罪も責任の明確化もありませんでした。それどころか、「見直しの最大要因は合併前上



越市の地域事業の進捗管理だとは思わない」とのべ、進捗管理をきちんとしてこなかったことを事実上不問に付す態度をとったのです。驚きました。

第4次行政改革推進計画の昨年度の取組評価について市は、「一部で十分でなかった取組があるものの、全体としては概ね順調に推移した」と評価しています。これに関連して、組織機構改革の取組を例に挙げながら、問題や課題があったものについても「順調」「おおむね順調に進捗」と評価して丸印をつけることはおかしいと指摘しました。

モデル案がとん挫しても「順調」

組織機構改革の取組では昨年度、大島、浦川原、安塚の3区の総合事務所をブロック化し、産業建設グループを浦川原区に集約するモデル案を作成、そして今年度から試行をするという段取りでした。推進計画上での目標は、「モデル案を作成することとしたからそれ自体で言えば、目標達成ということになるのかもしれない。でも現実には、関係住民の強い反発が出てそのモデル案がとん挫したのです。こうしたものを「おおむね順調」扱いするのはおかしいと思います。課題や問題が残ったものの評価はよくて三角印ではないでしょうか。取組み評価は市民目線ではないものですか。

9月議会、今後の日程

月日	曜	会議名	備考
9/10	月	建設企業委員会	
9/11	火	建設企業委員会	
9/12	水	文教経済委員会	上野議員担当
9/13	木	文教経済委員会	上野議員担当
9/14	金	総務委員会	橋爪担当
9/18	火	総務委員会	橋爪担当
9/19	水	委員会予備日	
9/20	木	本会議	一般質問
9/21	金	本会議	一般質問
9/24	月	本会議	一般質問
9/25	火	本会議	一般質問
9/27	木	本会議	討論、採決など

先週号で議会日程を掲載するのを忘れてしまいました。お詫びします。



市議会文教経済常任委員会（草間敏幸委員長）も8月31日、牧区、大島区などの現地調査を行いました。委員からは、対策強化を求める声が上がっていました。（写真は牧区）

文教経済常任委員会も干ばつ調査

理部長が、県の動きを詳しく伝えてくれ、今後、豪雪時の災害救助適用は改善の方向に向かって動き出していると確信しました。



【シラヤマギク】キク科の多年草。漢字で白山菊と書きます。いま、道ばたや山地で咲いています。

ムツとする暑さには参ります。先日執り行われたKさんの葬儀の日もそうでした。外を歩くと、すぐに汗が吹き出します。この日、式場へは礼服の上着を持って行ったものの、ワイシャツにネクタイ姿で通させてもらいました。

焼香が終わって外に出たとき、すぐに日陰を探しました。アスファルト舗装の照り返しが強く、陽が直接あたる場所にはとてもいられなかったからです。目に入ったのは葬儀参加者を受付、案内するテントです。ここは直射日光があたっている場所とは明らかに違った空間になっていて、いかにも涼しげでした。

テント周辺には最後のお別れをしようと足を運んでいた人たちが何人もいました。ほとんどの人が半そでシャツ姿で、タオルを持った人もいました。みんな、葬儀が終わり、出棺の時が来るのを静かに待っていました。

私はテントの裏側の方で休ませてもらっていたのですが、テント脇にある作業所入り口のところを若いお母さんと小さな子どもがいることに気づきました。子どもは三歳くらいの子と赤ちゃんです。この親子三人がいたこの場所も日陰となっていました。言うまでもなく、親子は涼を求めてこの場所にいたのです。

親子はおそらく亡くなったKさんの親戚の人でしょう、若いお母さんは礼服姿でしたから。日陰のところでは、生後二、三カ月くらいの赤ちゃんが「大の字」になって寝ていました。日陰といっても、コンクリートの上です。かたいし、太陽熱で暖まっています。若いお母さんはコンクリートの上に段ボールを敷き、ハンカチを枕にして赤ちゃんを寝かせていました。

赤ちゃんは目を閉じ、すやすやと眠っています。ただ、そのままにしておくと、赤ちゃんの髪の毛が汗でべったりとくっつきそうでしたし、ふっくらとした足も汗がにじみ出てきそうでした。そこはお母さんも承知していて、赤ちゃんのそばで「うちわ」を使って風を送っていました。

いいなああと思いつつながら、私はしばらく親子の様子をじっと見ていました。どれくらい経った頃だったでしょうか、お母さんに代わって三歳くらいの子が「うちわ」を使って赤ちゃんに風を送りはじめました。この子にとって、赤ちゃんは弟になるのか妹になるのかわかりませんが、とても素敵な光景でした。

「うちわ」はいっ頃から使われ始めたものなのでしょう。私の記憶では、扇風機が流行る前、「うちわ」は夏の生活必需品でした。夏の暑い盛り、大人も子どもも商店などからもらった「うちわ」を使い、涼んでいましたね。

さて、日陰で涼んで耳を澄ましている時、ふと気付いたことがあります。セミの鳴き声がほとんど聞こえなかったのです。私だけだろうかと心配になり、Kさんの近所に住むY雄さんに訊くと、セミの鳴き声が聞こえなかったのは私だけではありませんでした。みんな聞こえなかったのです。Y雄さんによると、「普段はセミ時雨がすごい」とのことでした。たまたまセミたちが鳴くのを一斉にやめただけなのでしょうが、それにしても不思議さを感じた時間帯でした。

目を再び親子の所に向けてみると、お母さんが再び「うちわ」で赤ちゃんをあおいでいました。ゆっくりゆっくりと……。まーるく、やさしい風を送っています。亡くなった人を送る場所で、小さな子どもの命が守られ、育っていく。私は何となくうれしくなりました。

「地域支え合い体制づくり事業」(除雪機購入助成)に関する市長答弁

私は総括質疑で「地域支えあい体制づくり事業」についても質問しました。以下、市長答弁の概要をお知らせします。

市では新年度に向けて、除雪対策も含め、地域コミュニティの強化を

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果 (数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv (マイクロシーベルト) だということです。

	8月29日 (水)	9月5日 (水)
上越南消防署	0.030	0.033
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.036	0.050
頸南消防署	0.047	0.047
東頸消防署	0.053	0.047
高士分遣所	0.047	0.047
名立分遣所	0.043	0.056

通じた中山間地域振興の検討を進めてきたところ、新潟県から地域住民の支え合いによる除雪支援体制づくりに対する補助事業のお話をいただいたことから、これを活用して「地域支え合い体制づくり事業」に取り組むことにした。

今回、活用する県の補助事業は、東日本大震災の被災者生活支援の一環として、長野県北部地震被災地域における支え合いによる除雪支援体制づくりに対して補助しているものだ。これを受け、本市としては、早急な対応が必要な中山間地域の、特に積雪が多く高齢化率の高い集落において、支え合い体制の構築を推進することとし、できるだけ多くの集落に取り組んでいただけるよう、集落にとって高額で負担の大きい除雪機の購入に要する経費に限



定して補助することとした。今年度は県の補助事業を活用した取組の第一歩であるので、県の補助の範囲内で除雪機購入の支援を行いたいと考えている。申請額が予算額を超過することも考えられるが、現在の除雪機の入手状況を勘案すると、予算を増額して対応したとしても、超過分については今冬中の除雪機の配置は難しい。今回採択できなかった集落につきましては、引き続き来年度以降での対応が必要であると考える。(写真は吉川区)